

要 望 書

《 国 道 3 4 9 号 整 備 促 進 に つ い て 》

【平成26年11月】

国道349号建設促進期成同盟会
会 長 根 本 匠

国道349号の整備促進について

国道349号は、昭和50年4月に国道へ昇格以来、漸次改良整備が進められ、着々とその成果が得られておりますことに深く感謝申し上げます。

ご存知のとおり国道349号は、茨城県水戸市を起点に福島県の阿武隈山系を縦断しながら宮城県柴田町に至る実延長約260km、沿線3県・18市町村に及ぶ路線であります。その路程の多くが山間部を通過しておりますことから、各所に幅員が狭隘で、かつ、屈曲の甚だしい箇所が各所にあり、また、沿線市町村の中心市街地等を通る路程でも、歩道等交通安全施設の整備の遅れから、近年の通行量の増加、特に大型車両の増加によって歩行者の安全が脅かされているなど、その実情は次頁以降に記載されている整備促進要望箇所が示すとおりでありまして、地域住民からは一日も早い改良整備が強く求められております。

言うまでもなく道路は、人と暮らしを支え、豊かな地域社会を形成する上で最も基本的な社会資本であり、道路網の整備なくして、地域の発展は成し得ません。

また、災害時において道路は、支援物資の運搬や緊急車両の通行、そして被災地からの避難路として重要な役割を担うものであり、主要幹線道路の整備は勿論のこと、それらを補完する道路の整備の重要性を「東日本大震災」という未曾有の災害を通じ、我々は再認識したところであります。

つきましては、沿線市町村の振興発展と沿線住民の安全・安心の確保、そして災害時における幹線道路等の補完機能を強化するため、沿線市町村が強く求める整備促進要望箇所の改良整備等について、特段のお力添えを賜りますよう要望いたします。

国道 349 号 整備 促進 要望 箇所

県名	市町村名	要 望 箇 所		事 業 名
		箇所名 (地名)	延長 m	
茨城県	那珂市 常陸太田市	那珂市額田～ 常陸太田市瑞穂町	8,600	道路改良

市町村名	茨城県那珂市・常陸太田市		
要望箇所	那珂市額田～常陸太田市瑞龍町		
	事業名	道路改良	
	延長 (m)	8,600	
	<p>《現状と要望事項》</p> <p>那珂市額田～常陸太田市瑞龍町の区間は、福島県及び茨城県北部から茨城県都である水戸市及び常磐自動車道那珂ICへのアクセス道路として重要な路線であります。暫定2車線であることや、幸久大橋の直上流に架かる旧道の幸久橋が老朽化のため平成25年10月以降通行不能となったため、通行車両が幸久大橋に集中し、朝夕の通勤時や行楽シーズンには大渋滞が生じております。</p> <p>つきましては、現在4車線化工事が進められておりますが、幸久大橋を含む全区間の早期完成が図られるよう、お力添えを賜りたい。</p>		



国道349号建設促進期成同盟会 構 成 員

会 長	根 本	匠 (衆 議 院 議 員)
副会長	大 久 保 太	一 (茨城県 常陸太田市 市長)
副会長	菊 池 基	文 (福島県 塙 町 長)
副会長	保 科 郷	雄 (宮城県 丸 森 町 長)
	高 橋	靖 (茨城県 水 戸 市 長)
	吉 成	明 (茨城県 日 立 市 長)
	海 野	徹 (茨城県 那 珂 市 長)
	清 水 敏	男 (福島県 い わ き 市 長)
	古 張	允 (福島県 矢 祭 町 長)
	大 樂 勝	弘 (福島県 鮫 川 村 長)
	岡 部 光	徳 (福島県 古 殿 町 長)
	澤 村 和	明 (福島県 平 田 村 長)
	大 和 田	昭 (福島県 小 野 町 長)
	富 塚 宥	暲 (福島県 田 村 市 長)
	新 野	洋 (福島県 二 本 松 市 長)
	古 川 道	郎 (福島県 川 俣 町 長)
	仁 志 田 昇	司 (福島県 伊 達 市 長)
	大 友 喜	助 (宮城県 角 田 市 長)
	滝 口	茂 (宮城県 柴 田 町 長)

《国道349号全線図》



【沿線市町村】

◎宮城県
柴田町
角田市
丸森町

◎福島県
伊達市
川俣町
二本松市
田村市
小野町
いわき市
平田村
古殿町
鮫川村
塙町
矢祭町

◎茨城県
常陸太田市
日立市
那珂市
水戸市